

と聞くようになり、「今日は開けておきましょう」と答えることで、納得するようになってきた。

もし最初に「いたずらするんじゃないやあせせん」と頭から叱ったならば、そこでおばあちゃんとの結びつきはできなかったろう。もちろんそれだけが二人の結びつきのすべてではない。しかし、そうすることによってひとつの〈結び〉ができたのである。これはあくまで一例であり、いろいろな状況のなかで、具体的にいくつもの〈結び〉をつくっていくことによって、おばあちゃんと孫のあいだに人と人との結びつきがつくられていく。

人と人との〈結び〉は、ひとつひとつの具体的な事例の積みかさねをすることによってできていくものであり、いくらおばあちゃんが孫を可愛いと思っても、まず相手を受けとめる、という態度なしには、いつまでたってもおばあちゃんの片思いに終わってしまう。わたし自身、病気で寝ていたため、何ひとつしてもらうことのなかった父方の祖母が好きだったのは、ほとんど小言がなかったためである。その反対に二言目には小言がとんできた母方の祖母は最後まで馴染めなかった。

おとなが子どもを受けとめていくということは、何でも「いいよ」「いいよ」と言うなりに、子どもの欲求を通してやることではない。何にも知らぬ白紙状態で生まれてくる子どもには、ひと

つひとつ教えて教育していかなければならない。しかし、その教えるというおとなそのものを子どもが好きにならない限り、何かをおぼえるということ以前に、おとなそのものを拒否して、つっぱねてしまうのである。そのため、最初にまずおとなが子どもありのままに受けとめ〈結び〉をつくる必要があるであり、教育というのは、それからはじまる。  
(評論家)

## むすぶ 中本愛子

編集部から「むすぶ」というテーマを頂いた時、ふと以前経験した一つの事を思い出しましたので、感じたままを記してみたいと思います。

ある時、年長児男女数名とビーズでくびかざりとか、うでわ、ゆびわなどを作ったことがありました。絹針に糸を通し最後に結びをつくるどころ迄は私が――、あとは子どもたちが自由に好みの長さにビーズを通し、両はしを結んで出来上りです。

中でもA君は妹に作ってあげるんだとはり切って、たんねんに

一つ一つ選んでずい分かかって、やっと二センチばかり通し、うれしそうに勢いよく糸のはし迄引いたのはよかったです、その途端ビーズはむざんにもバラバラに散ってしまいました。恐らく結んだつもりで忘れていたのか、あるいは結び玉が小さすぎたのか……とにかく私のミスでした。あの時のA君の残念そうな顔を今でも忘れることができません。

ぬいものをする時、うっかり結び目を忘れ、かなり針をはこんでから、スーッとぬける時のくやしき——、こんな経験は度々あったのに……ましてA君は妹のために、と一つ一つきれいな色をえらんで一生懸命通したものに、どんなにかくやしかった事でしょう。糸のはしを「むすぶ」という動作は簡単ですけれど、つい忘れたり、また小さすぎては今迄の苦労は無駄になってしまいます。またこのビーズを通す場合、最後の「むすび」は実はここから次の新しい動作につながる、いわば出発点なのでした。

しっかりした、しかも適当な「むすび」がなければ、次の新しい動作はたのしく、スムーズにつながらないのだと考えさせられました。しかしこの大切な「むすび」も糸の途中にあったのでは邪魔にこそなれ決して受け入れられるものではありません。「先生、これ何とかしてよ」ともってこられ、昔母が教えてくれたおまじないを、ブツブツとなえながらといた事もありました。やは

り「むすび」は適当な場所に、適当な大きさであってこそ意味があるのだと思いました。

「むすぶ」という意味を辞書でひいてみましたら「糸などを結ぶ」とか「交わり」とか、「終り」「実を結ぶ」「しめくくり」などでした。保育者にとつて「むすぶ」とは一体どういうことでしょう。たしかに「しめくくり」ということはいえます。いろいろな意味で——。でも私はこの一つの経験から、教師と子ども、子ども同志の「交わり」ではないかと思えます。一年という一本の糸の中で私はどのように子どもたちと交わり、つなぎ合ってきたのか、また糸の途中で大きな「むすび」(障害)をつくり、一人一人の子どもを十分受け入れられなかったり、或時は「むすび」を忘れ、気がついて結び直した時には、すでに子どもたちは、しかも大勢の子どもたちはぬけてしまっていたり……。とかく私の「むすび」はこのようなもので、いつも反省しております。

一年という長いようで、短かい糸は、間もなく終わろうとしています。せつかくつなぎ合った子どもたちも、バラバラになろうとしています。でも私はその前に、たとえわずかの間でも、始めと終りの糸をしっかりと結び合わせ、この輪の中で教師も子どもたちも、また父母も、共に喜び合える仲間でありたいと思っております。

(さくらん幼稚園)